

平成 28 年 11 月 9 日

ブロック協会・都道府県協会・各種連盟・認定団体
代表者 各位

公益財団法人日本バスケットボール協会
専務理事/事務総長 田中 道博
〔公印省略〕

頭部外傷に関する注意喚起(通達)

平素は当協会(JBA)の活動に対し、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、バスケットボール競技の特性上、選手同士のコンタクトは不可避であり、外力が強く頭部に働いた場合、脳震盪や脳内出血、脳挫傷等を引き起こすことがあります。当協会スポーツ医科学委員会が実施したトップリーグでの外傷・障害調査では、発生頻度は少ないものの、セカンド・インパクト・シンドロームの発症や長期にわたり治療が必要となる場合がございます。

頭部外傷が生じた場合、どの程度プレーを継続して良いのか、休ませた方が良いのか判断に迷うケースもあることと存じますが、プレーヤーズファーストの精神に基づき選手の健康管理を最優先に考え、最適な措置を取ることが非常に重要となります。

つきましては、各団体における事故防止、安全管理の取り組みを進めていただく際の指針、参考資料をお送り致します。資料をご熟読の上、指導者、トレーナー、ドクター等、関係者に周知いただきますようご理解、ご協力の程お願い申し上げます。

記

1. 頭部外傷への対処

- ・頭部外傷が起き、脳震盪を疑うような症状を選手が示した場合は可能な限り試合を中断し、選手をコート外に移動してください。
- ・各チームのメディカルスタッフ(ドクター、トレーナー)は脳震盪認識ツールを用い、選手の評価を行ってください。
- ・脳震盪の疑いがある場合、直ちに選手を交代させ、同日のゲーム復帰は避けてください。
- ・ドクター等と必ず協議し、必要に応じて医療機関にて受診してください。
- ・選手に脳震盪の症状がある場合、選手を一人にせず、24時間は選手に付き添うようにしてください。
- ・脳震盪と診断された場合、段階的に競技に復帰することが望ましく、その都度、脳震盪認識ツール等でチェックするようにしてください。

2. 参考資料

- ・SCAT3 翻訳版(スポーツによる脳震盪評価ツール 第3版)〔出典:藤原 QOL 研究所〕
ダウンロード:<http://fujiwaraqol.com/home/scat3.html>
- ・チャイルド SCAT3 翻訳版(5歳~12歳用)〔出典:藤原 QOL 研究所〕
ダウンロード:http://fujiwaraqol.com/home/child_scat3.html
- ・ポケット脳震盪認識ツール 翻訳版〔出典:藤原 QOL 研究所〕
ダウンロード:<http://fujiwaraqol.com/home/pcrt.html>
- ・スポーツによる脳損傷を予防するための提言〔出典:一般社団法人日本脳神経外科学会〕

以上